

埼玉スタジアム2002メインピッチ芝張替芝種選定委員会
第四回会議 議事録

情報提供 実証実験試験の結果について

- 今年秋期が温暖となり、その傾向は実証実験の結果にも表れているようである。暖地型芝では、NDVIおよびグルコース含量において、実証実験箇所ごとの8月から10月にかけての上昇・下降が各芝種で似通った傾向が見られた。
- NDVIおよびグルコース含量について、当初は月ごとの試合数にも左右されるのではと考えられたが、実際は相関が見られず、かつ今回の実証実験はピッチ外で行われたため、関係がないと考えられる。日照・気温の影響の方が大きいと思われる。
- 日照が良くなると、暖地型芝は活発に生長してグルコースの量が増加する。一方、寒地型芝においては、真夏の高温時に日照が強くなると、生長が悪くなる。そのため、暖地型芝のグルコース含量は、通常では夏季をピークに徐々に少なくなると考えられる。しかし今回の実証実験では、比較的日照条件の良い実証実験箇所②、③で10月に暖地型芝のグルコース含量が増加しており、日照・気候の影響が考えられる。

議事 委員会としての張替え候補芝の提案について

- 委員会としては『A天然芝（寒地型芝：ケンタッキーブルーグラス・ペレニアルライグラス・トールフェスク混合）』を候補として提案する。以下のような意見があった。
 - (1) 県民の方々の利用価値もよく考えた上で、利用を拡大促進できるような芝種・管理でなければならないだろう。
 - (2) 埼玉スタジアム2002は浦和レッズのホームグラウンドにもなっているため、今後の管理にあたっては、サッカーチームの望む環境をできるだけ叶えることを、技術対応の目的に位置付けてはどうか。
- 芝種の提案及び提案理由に関しては、追って取りまとめた上で改めて県へ提出する。

その他

- 埼玉スタジアム2002の現行の寒地型芝は、当初は播種から現地で行っていた。しかし今回の芝張替は、圃場から運搬する形で想定しているかと思う。そのため、現状の管理とは方法が異なることが考えられるため、留意すること。
- 現状の芝種を継続する結論となったが、多目的での利用を増やし、選手・チームの求める状態を保つため、スタジアムをさらに良くしていかなければならない。現状でも素晴らしい管理が行われているが、県あるいは管理者に努力していただくべき点が出ることは認識していただきたい。

以上